

通学安全検討部会について

1 基本的な考え方

- (1) 学校統合により遠距離となる児童について、教育活動に支障のないよう、公費負担により登下校に必要なバスを確保する。
- (2) バス通学において走行する経路は、冬季の積雪、バスの転回、通学所要時間などを考慮し、1年間を通じて子どもたちが安全かつ安定して通学できるよう、現在、ふるさとバスが走行している道路とすることを基本とする。

2 開催日と協議内容

	開催日	協議内容
第1回	平成28年 11月21日	○基本的な考え方、通学の現状、京北地域公共交通の現状・取組・課題の説明 ○質疑、意見交換
第2回	平成29年 3月6日	○「通学にあたって、バスを利用する地域」をテーマに、3グループに分かれて協議
第3回	平成29年 6月28日	○路線バスとスクールバスの説明 ○「乗車範囲と通学バスの運行方法について」をテーマに、3グループに分かれて協議
第4回	平成29年 9月29日	○通学バスの運行方法案の説明 ○「通学バスの運行方法について」をテーマに、全体で協議

3 主な協議経過

(1) 運行時間・時刻について

	意見	協議結果・回答
全体	○小中学校で下校時間が異なる際のバスの運行はどうなるのか。	○教育課程や時間割と連動したバスの確保ができるよう検討していく。
	○土日の登校日や部活動、緊急時の対応はどうなるのか。	○子どもたちの活動や安全に支障がないよう、可能なかぎり柔軟な対応をしていく。
二小	○黒田地区の子どもの乗車時間が長くなることへの対応は。	○小塩地区を回らないスクールバスを運行することにより、時間の短縮が可能となる(第4回で提案)。

(2) 運行経路・乗車範囲について

	意見	協議結果・回答
全体	○自転車通学の対象範囲や学年はどうなるのか。	○現在の通学方法を基本とする中で、対象範囲や学年(ステージ)については、改めて今後検討する。

一 小	○宇津線は、朝便の一本化を実施したが、特に問題ない。	
	○細野線は、スクールバスと一般の混乗だが、このままでよい。	
	○城山地区は冬場の徒歩通学は危険。バス通学も考えられる。	○地区ごとに通学方法を定めることも一つの方法である。
二 小	○中江地区にバスを入れてほしい。	○現地調査の結果や諸条件から、安全で安定した運行が難しい。
	○下地区児童の通学方法はどうか。	○歩道の整備は難しい。迂回路の歩行は外灯の整備が必要。殿橋バス停まで歩きバス通学することも一つの方法である。
三 小	○全員バス通学がよい。	
	○弓削地区の旧道にバスを入れてほしい。	○現地調査の結果や諸条件から、安全で安定した運行が難しい。

(3) 運行方法について

	意 見	協議結果・回答
全体	○通学バスの形態は路線バスかスクールバスか。	○第3回の協議で、スクールバスと路線バスには双方に利点と課題があることを確認した。 ○その上で、教育委員会と関係機関等で協議を行い、 <u>運行案を第4回に提案し、協議した。</u> ⇒8～10ページを参照
一 小	○基本的に現状でよい。	
二 小	○スクールバスの方がよい。	
三 小	○将来的なことを考えれば、路線バスの利用がよい。	

(4) その他

○バスの運転手の確保が大きな課題である。

4 確認事項

(1) 通学バスの乗車範囲については、

○京北第一小は、現行の乗車範囲に加えて、新たな乗車範囲についても検討する。

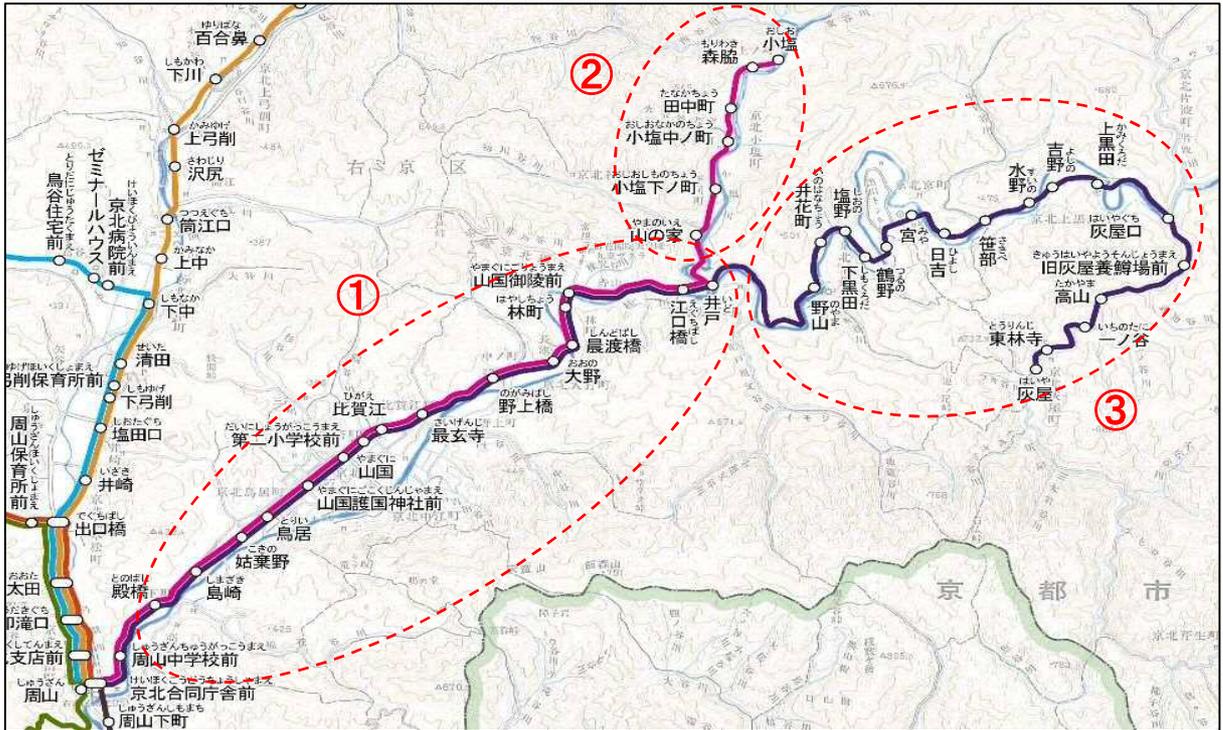
○京北第二小は、集団登校で最寄りのバス停まで歩き、バスで通学することが、子どもたちの安全を考えれば一番良い。

○京北第三小は、全員バス通学とする。

○周山中は、概ね現行の乗車範囲を基本とする。

(2) 通学バスの運行方法については、スクールバスと路線バスの双方を利用する案が最も妥当であると考えられる。

現状と開校時の通学時間について【京北第二小学校区】



① 山国地区

下地区から通学する場合の通学時間の比較

	現状（平成 28 年度）	開校時（平成 32 年度）
徒歩	・自宅～京北第二小（約 3km）：50 分	・自宅～バス停：15 分
バス	※	・殿橋～周山中学校前：1 分

※冬季のみ路線バスを利用：5 分

② 小塩地区

小塩下ノ町（バス停）周辺から通学する場合の通学時間の比較

	現状（平成 28 年度）	開校時（平成 32 年度）
徒歩	・自宅～バス停：5 分	・自宅～バス停：5 分
バス	・小塩下ノ町～第二小学校前※：12 分	・小塩下ノ町～周山中学校前：18 分

※普段は路線バス。冬季のみスクールバスを利用

③ 黒田・灰屋地区

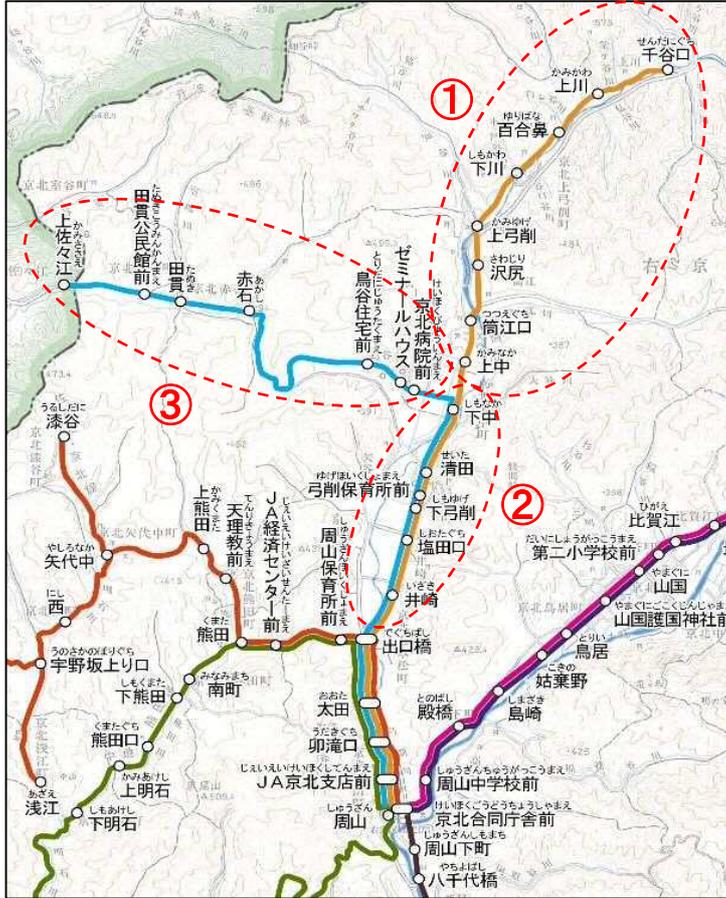
灰屋口（バス停）周辺から通学する場合の通学時間の比較

	現状（平成 28 年度）	開校時（平成 32 年度）
徒歩	・自宅～バス停：5 分	・自宅～バス停：5 分
バス	・灰屋口～第二小学校前※：22 分	・灰屋口～周山中学校前：28 分

※スクールバスを利用

※バスの乗車時間は、ふるさとバスの時刻表から算出しています。

現状と開校時の通学時間について【京北第三小学校区】



① 上弓削地区（田貫線以北）

下川（バス停）周辺から通学する場合の通学時間の比較

	現状（平成 28 年度）	開校時（平成 32 年度）
徒歩	・自宅～京北第三小（約 2.7km）：45 分	・自宅～バス停：5 分
バス	—	・下川～京北合同庁舎前：14 分

② 下弓削地区（田貫線以南）

塩田地区から通学する場合の通学時間の比較

	現状（平成 28 年度）	開校時（平成 32 年度）
徒歩	・自宅～京北第三小（約 3.0km）：50 分	・自宅～バス停（約 600m）：15 分
バス	—	・塩田口～京北合同庁舎前：6 分

（冬季のみ塩田口から上中まで路線バスで通学：4 分）

塩田地区の南側の井崎地区の児童も同様の通学状況であるが、自宅からバス停（井崎）までの距離はやや近い。

③ 田貫地区

田貫公民館前（バス停）周辺から通学する場合の通学時間の比較

	現状（平成 28 年度）	開校時（平成 32 年度）
徒歩	・自宅～バス停：5 分	・自宅～バス停：5 分
バス	・田貫公民館前～下中：8 分	・田貫公民館前～京北合同庁舎前：17 分
徒歩	・バス停～京北第三小（約 1km）：15 分	

※バスの乗車時間は、ふるさとバスの時刻表から算出しています。

通学バスの運行方法について（留意点等）

1 検討にあたっての留意事項

- (1) 現在のスクールバス及び路線バス（ふるさとバス）は、ともに「公益財団法人きょうと京北ふるさと公社」が運行している。同公社は、地域事情や道路事情に精通しているが、運転手の確保が切実かつ喫緊の課題となっている（大型免許が必要）。
- (2) 子どもたちの安全な通学手段を確保することを大前提とした上で、京北地域全体の将来を見据えた公共交通の在り方という視点も考慮に入れる必要がある。

2 バスの運行方法の比較

バス種別	現在の運行・利用	利 点	課題となる点
スクールバス 	○第一小学校・第二小学校区で運行 ○校外活動等の臨時便運行 乗車定員 14～28名	○児童専用のバスで、教育活動のみに利用 ○遠足等の校外活動や、気象警報発令時の下校時の利用について、比較的融通がきく	○路線バスと併走している場合は非効率 ○児童がいる地域のみ運行 ○授業日のみの運行
路線バス （ふるさとバス） 	○主に周山中学校生徒が利用 ○一般利用は少ない（1日1路線数人） 乗車定員 45～76名	○住民の足としての利用が地域の活性化につながる ○土日・学休期間にも運行（便数は減少） ○定期券利用で登下校以外にも利用可	○学校のカリキュラムに伴う運行時間や気象警報発令時の下校についての対応策の検討が必要

第2回 通学安全検討部会の主な意見

京北第一小グループ

1	宇津線は、現在朝便のみスクールバスと路線バスの一本化の社会実験中。大型車両バスであり、児童全員座ることができており、特に問題ない。
2	余野線・長野線は、ともにスクールバスと一般との混乗だが、一般客はほとんど乗車していないので、このまま混乗でもよい。
3	城山は、冬場は積雪・凍結等により、徒歩通学は危険。八千代橋からバス乗車も考えられる。

京北第二小グループ

4	スクールバスか、路線バスになるのかを決めて頂きたい。路線バスであれば、定期券でいつでも乗車できるが、スクールバスであれば、土日に部活動等で利用できないという課題があるのでは。
5	統合により、新たにバス通学する子どもへ配慮してほしい。
6	通学面でも統合して良かったと思えるように。
7	できるだけバスの乗車時間を短くしてほしい。
8	黒田の子どもは、統合すれば現状より乗車時間が6分延びる。
9	殿橋付近は歩道がないので、統合を機に歩道の整備や橋の新設などを検討してほしい。
10	下地区から側道沿いに歩いて通学することも考えられるが、外灯等が必要。
11	中江地区の子どもは、あまり徒歩について気にしていない。
12	小塩線の路線バスを小型にして、中江地区に入ってほしい。お年寄りも乗車でき便利になる。
13	自転車通学の対象範囲を拡大してほしいという声もある。自転車通学の対象学年も検討してみてもよい。

京北第三小・周山中グループ

14	京北第三小校区の小学生は全員バス通学が良い。バスは2台必要ではないか。同校区の中学生も自転車通学を認めてもよいのでは。
15	小学校1年生については、最初の半年ぐらいは支援が必要であり地域の見守りも大事。
16	歩くということも大事。現在通学で歩いているので、体力がついてきている。
17	スクールバスありきで考えるのは良くない。公共交通を確保し、地域住民とともに子どもも利用する方がよい。路線バスをもっと利用しやすいようにする必要がある。
18	路線バスも現状ありきではなく、効率化することも大事。子どもの通学のことだけでなく、公共交通の在り方としても考える必要がある。

第3回 通学安全検討部会の主な意見とまとめ

<主な意見>

京北第一小グループ

通学方法は現状どおりで良い。
新たにバスに乗りたいという声もあると思うが、乗車するかどうかは地区単位で考えをまとめる必要があるのではないかな。
スクールバス・路線バス双方の利点・課題はあるが、子どもたちが安全に通えることを大前提に、予算的なことも踏まえ効率的に運行していくことが必要。
地域の交通機関の維持・向上という視点も必要。
今年度から宇津線の登校便は路線バス化（スクールバスと路線バスが一本化）しているが、支障はない。中学生とも一緒になり、車内で良い環境ができています。

京北第二小グループ

地区ごとに集団登校で最も近いバス停まで歩き、バスで通学するというのが、子どもたちの安全を考えれば一番良い。
子どもの通学手段と地域の移動手段を同じ次元で考えるのはどうかと思う。スクールバスの方が、いろんなことに対応しやすい。
路線バスによる通学であれば、学休時や部活等でも定期券で乗車できるのでありがたい。
スクールバスと路線バスにはそれぞれ利点や課題があり、現時点では、運行方法に関する意見はまとまっていない。
通学に必要なバスを確保するという前提のもと、学校のカリキュラムや教育活動にに応じていかに効率的な運用を図るかが大事。

京北第三小・周山中グループ

第三小校区の児童生徒は全員バス通学とする。
地域の将来の公共交通の在り方を考え、ふるさとバスで通学することで良い。
弓削線・田貫線の2路線を活用することとし、どちらの路線バスに乗車するかは、乗車人数を勘案し、今後検討していく。
井崎・塩田付近の中学生は自転車通学を望んでいるかもしれない。

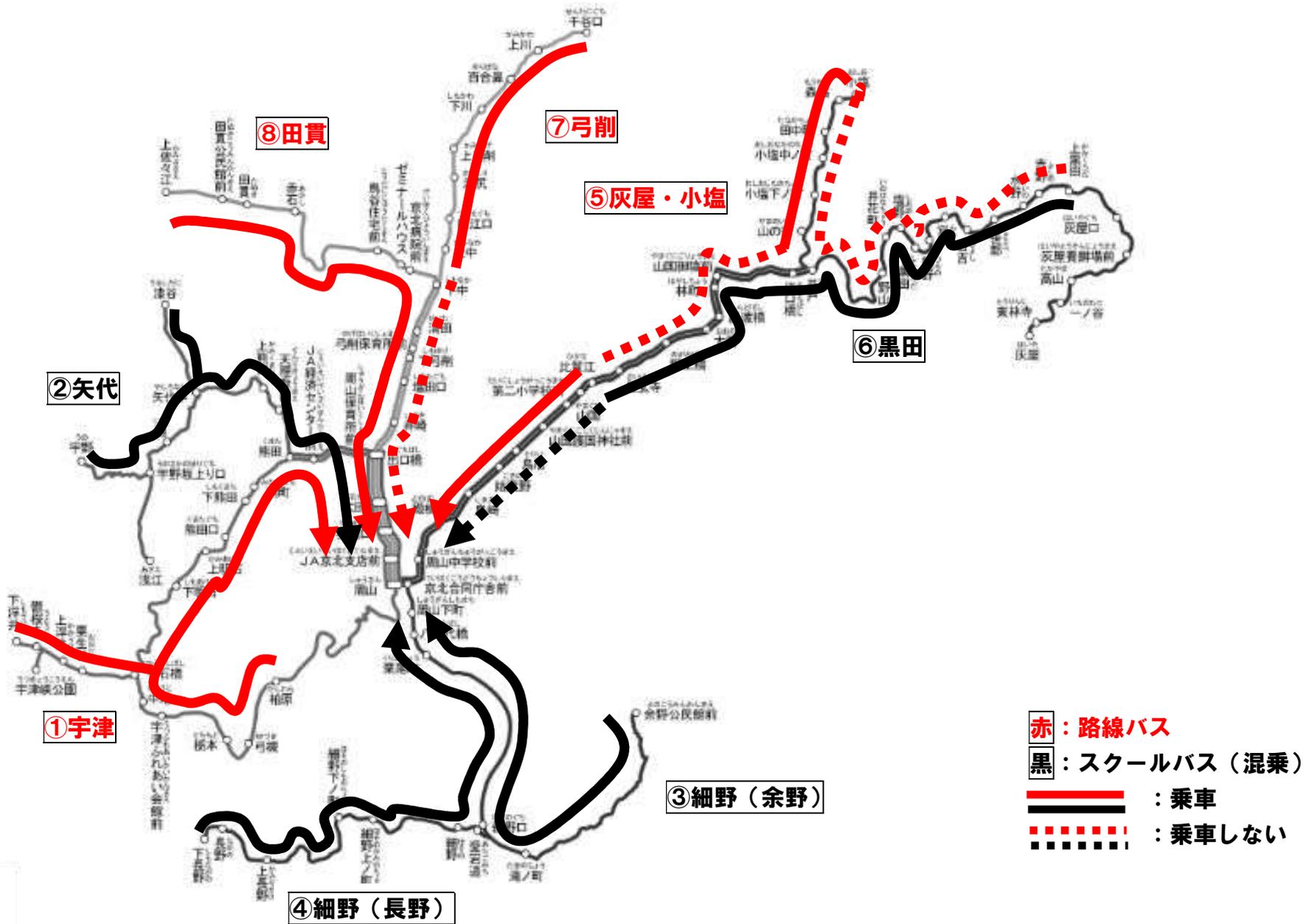
<まとめ>

- 京北第一小は、現行の乗車範囲に加えて、新たな乗車範囲についても検討する。
- 京北第二小は、集団登校で最寄りのバス停まで歩き、バスで通学することが、子どもたちの安全を考えれば一番良い。
- 京北第三小は、全員バス通学とする。
- 周山中は、概ね現行の乗車範囲を基本とする。
- スクールバスと路線バスには、それぞれ利点と課題があり、子どもたちの安全な通学手段の確保を第一に考えながら、利便性や地域全体の公共交通体系という視点で検討していくことが必要。

通学バスの運行方法について（案）

		1 現行便をそのまま利用する案	2 路線バスとスクールバスを利用する案 （1の一部変更案）	3 全員が路線バスを利用する案
バスの運行・乗車方法	第一小	○現状どおり	○宇津線：下校時も路線バスに変更 ○矢代線・宇野線：スクールバス（混乗）に一本化 ○細野線：現状どおり	○全線を路線バスに変更
	第二小	○灰屋線：路線バス（スクールバスの定員を超える児童が乗車） ○上黒田発：スクールバス（定員まで乗車）	○灰屋線：路線バス（小塩地区及び比賀江以降が乗車） ○上黒田発：スクールバス（混乗）（黒田地区から最玄寺までが乗車，比賀江以降は通過） ※小塩地区は回らない	○灰屋線：路線バス ○小塩線：路線バスを復活（登校時は2路線に乗車）
	第三小	○弓削線：路線バス ○田貫線：路線バス（2路線に分かれて乗車）	○弓削線：路線バス（上中以北が乗車） ○田貫線：路線バス（田貫地区と下中以南が乗車）	○弓削線：路線バス ○田貫線：路線バス（2路線に分かれて乗車）
	周山中	○現状どおり	○黒田地区から最玄寺までがスクールバス（混乗）に乗車 ○その他は現状どおり	○現状どおり
効果と影響	乗車時間	○乗車時間の短縮が難しい	○黒田地区の乗車時間が短縮される	○乗車時間の短縮が難しい
	学校の登下校管理	○概ね現状どおり（案2ほど複雑ではない）	○登下校時で，運行経路や乗車バスが異なる可能性あり	○路線バスのみとなり，効率的
	緊急時・校外活動対応	○バスの規模の範囲内で可能	○バスの規模の範囲内で可能	○ダイヤの柔軟性が求められる 校外活動の対応は別途検討が必要
	路線バス	○現状どおり（影響なし）	○一部路線に変更あり	○便数が増加し，活性化が期待される
	運転手	○現状どおり（増減なし）	○第一小校区の運行変更に伴い，より安定した運営が可能	○路線バスの運転手が多数必要

路線バスとスクールバスの一部変更案による通学バス運行図



路線バスとスクールバスの一部変更案による乗車見込人数

現校区	路線	運行形態	乗車対象地区	乗車定員		乗車見込人数	
				定員	座席数	総数	中学生
第一小	① 宇津	路線	宇津地区及び熊田地区の小中学生	45	45	38	17
	② 矢代	混乗	矢代地区及び宇野地区の小中学生	14	14	12	2
	③ 細野(余野)	混乗	余野地区の小中学生	28	28	6	4
	④ 細野(長野)	混乗	長野地区の小中学生	28	28	6	3
第二小	⑤ 灰屋・小塩	路線	小塩地区及び比賀江～下地区の小中学生 (自転車通学の中学生を除く)	59	29	55	15
	⑥ 黒田	混乗	黒田地区～最玄寺の小中学生 (小塩地区は回らず、比賀江以降は通過)	25	25	18	6
第三小	⑦ 弓削	路線	上中以北の小中学生	60	29	32	16
	⑧ 田貫	路線	田貫地区及び下中以南の小中学生	76	32	43	20

※運行形態：路線…路線バス 混乗…スクールバス（混乗）

※⑤の下地区以外の小学生は着座可能